

○能登半島地震被災地における第3回図書館現地調査報告（図書館災害対策委員会）

図書館災害対策委員会では、4月22日(火)能登半島地震で被災した図書館の3回目の現地調査を行った。訪問した図書館は、輪島市立図書館、穴水町立図書館の2館。

輪島市立図書館：2024年6月、8月に引き続き3回目の訪問。

市内の商業施設ワイプラザの空き店舗に2024年12月21日、開架図書約4万5千冊の仮設図書館がオープンした。再開のきっかけは、商業施設のオーナーから市側への提案で実現したもの。朝市も同じ敷地内の建物で再開、詳しくは地元紙で確認できる。



商業施設ワイプラザ（輪島市）：赤い車を起点に、左の建物では朝市が再開し、右の建物で仮設図書館が再開している。

仮設図書館は、明るく広々とした開架室の様子・カウンター活動を見ることが出来る。震災前の図書館とほぼ同面積であるが、席を思い切って多くした結果、館内で読書をする人が増えた。特に男性の利用者、工事関係者も見られるようになった。一方で、震災による急激な人口減少のため利用は相対的に少ないとのことである。仮設図書館の周辺には、仮設住宅があり、見守りやコミュニティの再生に役立っている。

商業施設での再開の経緯、移転作業の経過を伺い、本館からの引っ越し、仮設図書館での排架・整理作業に至るまでに各所からの支援がタイミングよくなされたことがわかった。日本出版クラブから段ボール5,000枚の支援があった。書架の一部は石川県立図書館の仲介により金沢美術工芸大学（金沢市立）の旧図書館から提供された。段ボール詰め等引っ越し作業と仮設図書館での排架整理等は、県内外の図書館職員や金沢学院大学の学生ボランティアの手で行われた。なお、図書館職員のコーディネートは石川県立図書館が行った。



輪島市：仮設図書館入口



児童書コーナー



カウンター等

本館集密書庫には約 11 万冊の資料が残ったままで、新館構想まで別の場所に保管の予定であるが、移転先は決まっていない。本館は今年度中には解体の予定である。

市内には書店が無くなり、隣町の穴水町に行かないと本を直接見ての購入はできない。仮設住宅等を巡回する移動図書館は（公社）シャンティ国際ボランティア会の協力を得て実施していて、支援終了後には市で運行する予定である。

倒壊した民家などの撤去作業が 6 割程終了。公共施設、役所や市内の歩道などの復旧はまだである。



輪島市：本館集密書庫は被災当時のまま



輪島市：市立図書館へ向かう道中

※JLA メールマガジン 第 1221 号（3/12）～1224 号（4/2）の「輪島市立図書館のその後（4 回連載）」輪島市立図書館・堂ケ口真奈さんの投稿も参照されたい。

穴水町立図書館：2024 年 8 月に引き続き 2 回目の訪問。

2024 年 7 月 10 日に部分開館、その後 2025 年 3 月 25 日、震災前の状態に復旧して開館。火～日曜日（週 6 日）、開館時間 9：00～18：00。赤ちゃんお話会、スタンプラリー等事業再開。この間、石川県立図書館、大学生、図書館経験者によって書架移動・蔵書点検等が行われた。職員の確保が課題であったが、司書有資格者の採用が叶い図書館活動の充実が期待できる。

住民からは、早く図書館を開けてほしいとの声が多数寄せられていた。図書館はコミュニティ施設としての活動、つどいの場となってほしいという町からの強い要望がある。

図書館が入る「さわやか交流館ブルー」は、9 月以降に屋根の改修や壁のクロス張替えを行う予定である。



穴水町：さわやか交流館ブルー（複合施設・図書館 2 F、公民館、ギャラリーなど）

2 館とも日本図書館協会の「被災した図書館等への助成」については滞りなく実施され、輪島市と穴水町の館長から、これまでの支援について皆様に感謝を伝えて頂きたい旨の言葉を託された（輪島市立図書館は助成されたマット類が児童コーナーに置かれて活用されている。穴水町は施設の一部修繕費用を助成）。

今回も金沢市からレンタカーを利用したが、金沢市から輪島市まで移動時間は2時間程度であった。6月、8月の現地調査と比べて、道路の復旧が進み対面通行や速度規制が大分解消され30分から40分程度早く到着することができた。コンビニや食堂は通常通り営業、図書館のある商業施設では電気店やドラッグストアなどが通常営業している。輪島市内の宿泊については、一部再開を始めているが電話等で確認が必要である。穴水町の道のりは大きな交通規制がなく、道路沿いには一部倒壊する家屋や更地が見られ、ホームセンターとその系列の本屋、図書館の向かいにある道の駅などは通常通り営業されている。

震災から1年4カ月が経過し、被災状況の調査だけではなく、復旧復興の仕事、利用者・住民との関係、まちづくりのことなどを聞くことができた。傾聴することの大切さを感じる訪問であった。

今回の調査委員は、加藤孔敬、津村秀夫、西村彩枝子の委員会委員と石川県立図書館職員
の計4名。

【J L A メールマガジン 1221 号 2025/3/12 発信】《抜粋》

◆連載：輪島市立図書館のその後（第 1 回）

「豪雨での分館の被災と支援」

2024 年 9 月 21 日に発生した令和 6 年奥能登豪雨では、休館中の輪島市立図書館や、当時開館していた道の駅ふらっと訪夢の仮設輪島市立図書館、門前図書館では目立った被害はありませんでした。

しかし、輪島市役所の町野支所に併設されている、輪島市立図書館町野分館は近隣の河川の氾濫による床上浸水の被害がありました。8 月 1 日によりやく再開したばかりの分館が、たったひと月半で再び臨時休館となりました。

床から一段目の書架の資料は泥水に浸かり水濡れし、カビが発生したためすべて廃棄されました。書架も破損やカビの発生によりすべて廃棄され、2025 年 3 月現在も再開のめどが立っていません。

現時点までの市立図書館の点検で、水に浸かって利用できなくなり廃棄された資料は約 2 千冊に上るだろうと推定されています。

町野分館で水損した資料のうち重要な郷土資料については、石川県立図書館が被災から一週間後に回収、国立国会図書館の専門職員の派遣を依頼し、県立図書館で修理が行われました。その中には当館と町野分館に 1 冊ずつしか所蔵のない貴重な資料も含まれていました。石川県立図書館の素早い支援に深い感謝を申し上げます。（輪島市立図書館 堂ケ口真奈様からの投稿／2025.3.9 受領）

【J L A メールマガジン 1222 号 2025/3/19 発信】《抜粋》

◆連載：輪島市立図書館のその後（第 2 回）

「多くに支えられた再出発 「仮設」輪島市立図書館」

輪島市立図書館は、市内商業施設の空きテナントに移転し 12 月 21 日に再開館しました。開架冊数は 4 万 5 千冊。石川県立図書館の田村館長の勧めで、金沢美術工芸大学の旧キャンパスの図書館から使われなくなった書架類を寄贈いただき開架に活用しています。

移転に関しては、ボランティアの方々が大きな力になりました。石川県立図書館が窓口となり県内外の図書館関係者のボランティアを募集してくださいました。また、私の母校である金沢学院大学で司書課程を学ぶ学生さんも参加してくださいました。ボランティアの参加者はのべ 107 名にのぼりました。

その他にも、資料を運搬・保管するための 5 千枚に上るダンボールを日本出版クラブ様から支援いただいたり、図書館関係の業者の方が書架の設置についてアドバイスや製図を行ってくださったりと、多くの支援がありました。

想定外だった町野分館の浸水被害の対応によって、輪島市立図書館の移転は非常にタイトなスケジュールとなりました。そんな中、本当に多くの方に支えていただいて仮設輪島市立図書館の開館が実現しました。感謝してもしきれません。（輪島市立図書館 堂ケ口真奈様からの投稿／2025.3.9 受領）

【J L A メールマガジン 1223 号 2025/3/26 発信】《抜粋》

◆連載：輪島市立図書館のその後（第 3 回）「仮設図書館 市民の憩いの場として」

新しい仮設図書館でよく聞くのが、「広くなった」という言葉です。実際は、以前の市立図書館の公開スペースと面積は大きく変わっていません。書架間の通路を広くとる、いすや机、下足できるマットを置いて滞在スペースを多くしたことが、「広くなった」という印象に繋がっていると思います。

利用者の利用傾向も大きく変わりました。市立図書館では借りてすぐ帰るという利用者がほとんどでした。しかし新しい仮設図書館ではゆっくり館内を歩き回って本を吟味したり、椅子に座って雑誌を読んだり、机に一日中向かって勉強をしたりと、滞在時間が長い利用者が増えました。

イベントを開催するための集会スペースはなく、おはなし会や読書会など、これまで市立図書館で行われていた行事は全て中止しています。事務室には応接スペースや水場がなく、打ち合わせは学習スペースの一角で行い、館内清掃で水が必要な時は、屋外の散水栓まで行き水を汲みます。

仮設とはいえ新しい場所に移転したため改善した点もありますが、やはり仮設ということで図書館として適切な運用ができない部分もあります。

しかしながら、市民の憩いの場として再出発できた喜びは大きいです。（輪島市立図書館 堂ケ口真奈様からの投稿／2025.3.9 受領）

【J L A メールマガジン 1224 号 2025/4/2 発信】《抜粋》

◆連載：輪島市立図書館のその後（第 4 回）：「被災地の図書館の先行き」

新しい仮設図書館がオープンしましたが、以前の輪島市立図書館には約 11 万冊の資料が残されたままです。輪島市立図書館がある輪島市文化会館は解体の予定になっています。解体工事が始まるまでに、この取り残された資料を整理しなければなりません。

現在、5 万冊を除籍、残り 6 万冊を市内に保管場所を探し移転させるという方針のもと、整理作業を進めています。

仮設図書館をオープンしながら市立図書館の整理も行うとなると、人員が不足します。司書資格を持つ 2 名の職員が午前、午後に分かれて交代で 2 時間ずつ、作業のため市立図書館に通っています。2 人同時に市立図書館に行くと、仮設図書館の業務を行う人員が乏しくなるからです。

電源喪失し空調が稼働しないまま 1 年が経過した市立図書館の書庫資料はカビが生え、対応に苦慮しています。除籍資料はそのまま廃棄、保管を継続する資料は無水エタノールで拭いて、ダンボールに入れていきます。

新たな保管先は決定しておらず保管する資料の移転が滞っており、いま、市立図書館の公開スペースだった場所は資料の詰まったダンボールで埋もれつつあります。

まだ、輪島市立図書館の復旧は遠いです。（輪島市立図書館 堂ケ口真奈様からの投稿／2025.3.9 受領）